

日本障害者歯科学会専門医制度 研修施設認定申請の手引き

はじめに	1
I. 認定基準	1
1. 研修施設	1
2. 連携施設の要件	3
3. 障害者歯科専門研修の担当	3
1) プログラム統括責任者	3
2) 専門医指導医	5
II. 認定申請の方法	
(1) 申請に必要な提出書類	6
(2) 申請先	6
(3) 申請受付期間	6
(4) その他	6
III. 認定の更新	7
別添 1 プログラム整備基準	8

申請書類

障害者歯科専門医研修施設認定申請書（様式専施設 1）	13
プログラム統括責任者の経歴及び業績（様式専施設 2-1, 2-2）	14
施設内容説明書（様式専施設 3-1, 3-2）	16
日本障害者歯科学会専門医制度研修カリキュラム	
(1) 年次カリキュラム（例）	18
(2) 他の研修施設（例）	19
(3) 研修項目別研修カリキュラム（例）	20
(4) 施設における専門医研修プログラム（例）	22
専門医研修プログラムチェックシート（例）	42
障害者歯科学会専門医研修施設更新申請書	43
過去 5 年間の研修実施状況報告書	44

日本障害者歯科学会専門医制度 研修施設認定申請の手引き

2019 年 12 月

はじめに

研修施設の認定を受けるためには、専門医制度に関する細則第3条の規定により、専門医委員会の審査を受けなければなりません。認定を希望される施設は、下記を熟読の上、認定申請書を提出してください。細則第3条に定めた基幹施設は専門医指導医が常勤であり、研修プログラムが全て履修できる環境にあるものです。連携施設は、専門医指導医が外部所属であり、研修プログラムが全て履修する環境にあるもの、あるいは専門医指導医が常勤あるいは外部所属に関わらず研修プログラムを全て履修する環境にないものです。基幹施設の専門医指導医は本来の研修施設としての役割に加え、他の研修施設のカリキュラムを支援することも要求されます。実りある障害者歯科学会専門医研修を実施するために、連携施設は専門医指導医により研修カリキュラムを実行することが求められます。

I. 認定基準

日本障害者歯科学会専門医制度における研修施設の認定基準は、規則第23条、第24条、細則（以下、細則とよびます）第3条に定めた通りです。現在、社会から障害者の歯科医療を専門的に担える人材の育成が要望されています。このような社会の趨勢に鑑み障害者歯科学会専門医も、そのレベルを高め、信頼する専門医制度であることを、広く社会に対し担保するものとしなくてはなりません。これらを踏まえ、研修施設の認定基準は以下の通りです。

1. 研修施設（細則第3条）

次の条件を満たし、かつ学会専門医審査委員会の審査に合格することが必要です。専門医研修施設は、専攻医に対して研修カリキュラムを円滑に実施する環境を整えなければなりません。学会提示の研修カリキュラム、研修プログラムを参考に研修施設の実態に応じて教育可能な障害者歯科学会専門医研修プログラムを研修施設が作成し、学会が認定したものとします。

そのためには、専門医研修施設は細則第3条で定める条件を満たす歯科医療機関でなければなりません。

- (1) 専門医指導医により十分な指導が行われ、質の高い研修を受けられることが認められること。
専門医指導医は、研修施設のカリキュラムの実施を当該研修施設のプログラム統括責任者と協働して専門医育成に務めます。
- (2) 専門医指導医は、研修施設外の所属であることを妨げません。
専門医指導医と研修施設が離れていてもインターネットのTV会議など、様々なメディアを利用し、継続的かつ十分な指導を行う体制を維持することが求められます。
- (3) プログラム統括責任者は日本障害者歯科学会が定める専門医指導医、専門医、認定医指導医、あるいは認定医であり、十分な研修体制を管理するものであること。
- (4) 研修プログラムの実施に必要な環境が次の基準に合致していること。

専門医研修施設の基準

【対 応】

- ①研修カリキュラムと研修プログラムに沿った研修ができるように当該研修施設と連携施設で実施するカリキュラムが定められ、明示されていること。
- ②院内感染防止対策、緊急時の対応、医療安全対策についてマニュアルがあり、十分な対策がとられ、院内研修が定期的に行われていること。

【人 員】

- ③専門医指導医が研修施設に常勤あるいは非常勤で1名以上いること。
- ④研修施設に所属する歯科医師が指導医以外に1名以上所属していること。
- ⑤研修施設にプログラム統括責任者を務める歯科医師が所属していること。
- ⑥プログラム統括責任者は所属の専門医指導医あるいは専門医が担う。専門医が所属していない場合、認定医指導医あるいは認定医がプログラム統括責任者となり、専門医指導医と協働する。

【設 備】

- ⑦医学関連雑誌・書籍、障害者歯科関連雑誌・書籍、障害者福祉の書籍があること。この中には「研修施設」が出版社と契約し、電子ジャーナルで全文利用出来るものも含めることができる。
- ⑧症例検討会、抄読会等の学術集会が施設内で定期的に行われていること。
- ⑨学会発表、論文発表等の機会が与えられ、指導が受けられ、その実績があること。

【症例数】

- ⑩症例数として、研修施設における障害者の患者数が1週間で概ね20症例以上であること。

(5) 専門医研修施設における基幹施設と連携施設

- ①基幹施設：専門医指導医が常勤であり、研修プログラムが全て履修する環境にあるもの。

②連携施設

連携施設 A：専門医指導医が外部所属であり、研修プログラムが全て履修する環境にあるもの。

連携施設 B：専門医指導医が常勤あるいは外部所属に関わらず研修プログラムを全て履修する環境にないもの。研修プログラムを全て履修できない場合は、他の専門医研修施設と連携して研修プログラムを実施する。連携する施設は明確にされ、研修プログラムの分担が示されなければならない。

2. 連携施設の要件(細則第3条)

- (1) 専門医指導医は、研修施設のカリキュラムの実施を当該研修施設のプログラム統括責任者と協働して専門医育成に務めます。
- (2) 研修施設認定申請の際に、連携施設の概要と協働する専門医指導医を届け出ておくことになっています。
- (3) 連携施設の認定期間はその研修施設の認定期間と同一日となります。

3. 障害者歯科専門研修の担当

1) プログラム統括責任者(細則第3条)

プログラム統括責任者は、研修医指導医および研修施設と一体で申請して下さい。日本障害者歯科学会専門医指導医、専門医、認定医指導医、あるいは認定医でなければなりません。十分な研修体制を管理することが求められます。

プログラム統括責任者の業務

プログラム統括責任者(研修施設所属の歯科医師)の業務は以下の通りです。

- (1) 研修カリキュラムと研修プログラムの作成・申請
- (2) 専門医指導医と連携した専攻医への指導補助
- (3) 研修手帳の印刷・利用
- (4) 専攻医への注意喚起
- (5) 研修施設の更新
- (6) 研修施設に関して変更があったときの専門医委員会への報告
- (7) メンタルヘルスへの配慮
- (8) その他研修に関する必要事項

各項目について特に御配慮頂きたいことは以下の通りです。

(1) 研修カリキュラムと研修プログラムの作成・申請(規則第24条、細則第4条)

研修カリキュラム(申請の手引き P18~20)と研修プログラム(申請の手引き P24~42)を参考に専門医研修手帳に沿った研修がするように、それぞれの施設の実態に適合したカリキュラムおよびプログラムを作成し、専門医委員会に申請します。特殊専門領域に偏らず、全般的に習得することを主眼としてください。他の研修施設との連携を密にし、専門医研修手帳の全ての項目について研修がするよう分担が明確にされることが必要です。

(2) 専門医指導医と連携した専攻医への指導補助

プログラム統括責任者は、専門医指導医とともに施設全体の指導体制を管理してください。上記のカリキュラムに沿ってプログラム進捗状況を管理します。診療の基本理念を体得させることにも十分力を尽くしてください。また学術集会への参加、論文作成、発表等についても積極的に行うように環境を整えてください。

研修が修了し、日本障害者歯科学会専門医試験を受験する際には、症例要約の提出、筆記試験及び面接試験があります。研修期間中にバランスのとれた症例を経験するように環境を整えてください。専攻医が受験する際には、「障害者歯科学会専門医臨床研修手帳(以下、研修手帳とする)」の

提出が必須となります。

(3) 研修手帳の印刷・利用

- ① 研修手帳は、専攻医各自が日本障害者歯科学会ホームページから印刷するように指導を御願います。
- ② 専攻医には、研修手帳に基づき研修を行うことについて説明をお願いします。
- ③ 専門医試験受験の際には症例要約を提出しますので、研修事項や症例をそのつど記録しておくよう、専攻医への指導を御願います。
- ④ 1年ごとに指導医の評価を受けるように指導をお願いします。
- ⑤ なお、認定医を取得後に2回以上の更新を行っている者は、研修完了しているとみなし、研修手帳の提出は不要です。

(4) 専攻医への注意喚起

また次の点については、専攻医の注意を喚起してください。

- ① 専門医試験受験の条件である会員歴は、継続して5年以上必要ですので、なるべく早く入会するよう勧めてください。
- ② 専門医研修プログラムを受ける者に日本障害者歯科学会専門医委員会（専門医委員会）への登録を促してください。登録日が研修の開始日となります。
- ③ 専門医委員会への登録後に専攻医登録証を交付いたしますので、研修手帳に貼付してください。なお、専攻医登録証が貼付されていない場合は研修手帳として認められません。
- ④ 研修手帳は紛失しないようご指導ください。

(5) 研修施設の更新（規則第28条）

専門医研修施設の認定の有効期限は認定後5年間ですので、専門医研修施設の継続のために更新に必要な書類を提出し、審査を受けてください。なお専門医研修施設が認定医臨床経験施設としても認定されている場合、専門医研修施設の更新をもって認定医臨床経験施設としての認定となります。

(6) 研修施設に関して変更があったときの専門医委員会への報告

専門医指導医あるいはプログラム統括責任者など、専門医研修施設に関して何らかの変更があったときは、すみやかに専門医委員会へ報告し、承認を得てください。

(7) メンタルヘルスへの配慮

専門医指導医とともにハラスメントの防止や、専攻医のメンタルヘルスにも配慮を御願います。

(8) その他研修に関する必要事項

専攻医が良い環境で適切な専門医研修を受けられるように環境整備や管理をお願いします。ご不明な点がございましたら、専門医委員会へ問い合わせをお願いします。

2) 専門医指導医（規則第 12 条～第 17 条）

(1) 専門医指導医の要件

専門医指導医は、日本障害者歯科学会が定める要件を満たし、認定された資格です。

(2) 専門医指導医の役割（プログラムの作成と実施、教育、指導、評価など）

① 研修カリキュラムと研修プログラムの作成協力

専門医指導医は、プログラム統括責任者が作成する研修施設における研修カリキュラムと研修プログラムの確認と指導をお願いします。施設の実状を踏まえた実現可能なプログラムを作成してください。必要に応じて他の研修施設との関わりを検討してください。

② 教育・指導

専門医指導医は、研修施設において偏りがなく到達目標が達成するように専門医研修プログラムに沿って専攻医の指導を行ってください。指導の際には、研修手帳をお役立てください。

③ 評価

年に 1 回、研修の区切りに専攻医とプログラム統括責任者とともに下記 a. および e. の評価項目を記載し、その後の研修がさらに充実するよう専攻医に対する助言・指導をお願いします。修了時は下記のプログラムについて全ての評価をお願いします。

評価の記載が必要なプログラムは、以下の通りです。

- a. 障害者歯科専門研修の目標・役割
- b. 障害者歯科専門研修の到達目標
- c. 経験すべき疾患
- d. 習得すべき診療技能と手技
- e. 臨床現場での評価（診察手技・能力）

④ 学会参加・論文作成

日本障害者歯科学会、関連学会、関連講習会への参加を積極的に促し、自己研鑽を奨励してください。研修期間中には、学会発表が実現するように調査研究・症例報告などの課題を持って取り組ませてください。さらに論文投稿するように常日頃から進捗状況を確認し、適切な指導をお願いします。

⑤ メンタルヘルスへの配慮

プログラム統括責任者とともにハラスメントの防止や専攻医のメンタルヘルスにも配慮をお願いします。

⑥ 自己研鑽

専門医指導医は、自身の成長のために積極的に学会参加し、自己研鑽を積んでください。地域での講演やセミナー、学会における査読、委員会活動などを通して指導者として成長されることを期待しています。なお専門医指導医は 5 年毎に更新を行わなければなりません。更新に必要な研鑽がありますので、ご留意願います。

Ⅱ 認定申請の方法

研修施設の認定申請の手続きを以下に記載します。

(1) 申請に必要な提出書類（細則第4条）

（各様式は学会ホームページからダウンロードできます）

- ① 日本障害者歯科学会専門医研修施設認定申請書（様式専施設 1）
- ② プログラム統括責任者の経歴及び業績（様式専施設 2）
- ③ 施設内容説明書（様式専施設 3）
- ④ 研修カリキュラム（様式専施設 4）
- ⑤ 施設における専門医研修プログラム（様式専施設 5）

別添1の「専門研修プログラム整備基準」に準拠した研修プログラムを作成してください。

- ⑥ プログラムチェックシート（様式専施設 6）
- ⑦ 院内感染マニュアル(CD-Rでの提出可能)
- ⑧ 医療安全対策マニュアル(CD-Rでの提出可能)

(2) 申請先

送付は簡易書留等の追跡ができるもの（レターパック可）で日本障害者歯科学会専門医委員会宛てに郵送してください。受領書をご希望の場合は返信用の官製はがきを、申請時にご同封ください。

〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 駒込 TS ビル 4F

（一財）口腔保健協会内

一般社団法人日本障害者歯科学会

専門医委員会 宛て

(3) 申請受付期間

専門医研修施設の申請は、受付期間前に日本障害者歯科学会ホームページ上に公示します。公示後に申請に必要な書類を作成し、専門医委員会へお送り下さい。必要に応じて問い合わせをさせていただきます場合がありますので、ご了承ください。

(4) その他

審査料、登録料は無料です。専門医研修施設として認定された場合は、学会から認定証がPDFで発行されます。印刷された認定証を希望される際は、3,000円（別途消費税）が必要となります。

Ⅲ. 認定の更新

- (1) 専門医研修施設の認定の有効期間は 5 年後の 12 月 31 日です(規則第 28 条).
- (2) 更新手続きには、下記の申請書類を提出する(細則第 17 条).
 - ① 日本障害者歯科学会専門医研修施設更新申請書(様式専施設 7)
 - ② プログラム統括責任者の経歴及び業績(様式専施設 8)
 - ③ 施設内容説明書(様式専施設 3)
 - ④ 研修カリキュラム(様式専施設 4)
 - ⑤ 施設における専門医研修プログラム(様式専施設 5)
 - ⑥ プログラムチェックシート(様式専施設 6)
 - ⑦ 過去 5 年間の研修実施状況報告書(様式専施設 9)
- (3) 更新申請は認定期限の年の 11 月に受け付けます.

別添1 「障害者歯科専門医研修プログラム整備基準」

研修プログラムを申請する研修施設のプログラム統括責任者は、本整備基準に準拠した研修プログラムを作成してください。研修プログラムは日本専門医機構の中の「研修プログラム研修施設評価・認定部門研修委員会」で審査され、基準に照らして認定されます。 細かな解説が必要な事項については各専門研修プログラムの解説資料として別に用意して下さい。

1. 理念と使命

①障害者歯科専門医の理念

障害者歯科専門医制度では、障害者へ良質な歯科医療を提供するために必要な専門的知識と技能、及び態度を有する歯科医師を育成することにより、障害者と保護者・家族の日常生活、社会生活、福祉の向上と発展を図り、障害者の健康に寄与する。

②障害者歯科の使命

障害者歯科専門医には、歯科疾患や障害に起因する疾患への対応のみならず、障害者の健全な日常生活、社会生活を総合的に支援することが求められる。障害者歯科専門医は、「障害者歯科専門医は障害者と疾患の治療だけでなく、保護者・家族を支援する」という基本的姿勢のもとに、障害者の健康の増進および福祉の充実に寄与する。

2. 専門研修の目標

①専門研修後の成果

専攻医は、障害者歯科研修プログラムによる専門研修により、「障害者歯科専門医は障害者と疾患の治療だけでなく、保護者・家族を支援する」という基本的姿勢のもと、「総合的な歯科医療」、「健康支援者」、「障害者の権利擁護者」、「学識・研究者」、「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた障害者歯科専門医となる。そのために各領域における一般目標・態度、診療能力、知識に関する到達目標が設定されている。

②到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）

i 専門知識

専攻医は、障害者歯科専門医研修プログラムにおける到達目標にしたがって、専門的知識を習得していく。専攻医は概ねその知識を有し、指導医とともに診療できる必要がある。

ii 専門技能（診療技能、手技）

専攻医は、障害者歯科専門医研修プログラムにおける到達目標にしたがって、専門的診療能力を習得していく。専攻医は概ねその技能を有し、指導医とともに診療できる必要がある。

iii 学問的姿勢

専攻医は、科学的思考、生涯学習、研究などの技能と態度を習得していくために、以下の内容を学んでいく。

- 1) 最新の医学情報を常に吸収し、現状の医療を検証できる。
- 2) 高次医療を経験し、病態・診断・治療法の研究に積極的に参画する。
- 3) 国際的な視野を持って障害者歯科医療に関わることができる。
- 4) 国際的な情報発信・国際貢献に積極的に関わる。
- 5) 他者からの評価を謙虚に受け止め、生涯にわたって自己省察と自己研鑽に努める。

iv 歯科医師としての倫理性、社会性

障害者歯科専門医としての臨床能力には、歯科医師としての基本的診療能力と、障害者歯科専門医としての専門的知識・技術が含まれる。障害者歯科専門医研修プログラムにおいて、専攻医は以下の基本的診療能力を習得していく。

- 1) 障害のある人に尊厳を持って接し、年齢・精神年齢（発達段階）に合わせた説明・告知と同意を得ることができる。
- 2) 患者のプライバシーに配慮し、障害者歯科医としての社会的・職業的責任と医の倫理に沿って職務を全うできる。
- 3) 障害者歯科医療に関わるロールモデルとなり、後進の教育に貢献できる。
- 4) 社会に対して障害者歯科医療に関する啓発的・教育的取り組みができる。
- 5) 障害者医療に関わる多くの専門職と協力してチーム医療を実践できる。
- 6) 障害者歯科医療の現場における安全管理・感染管理に対して適切なマネジメントができる。
- 7) 医療経済・社会保険制度・社会的資源を考慮しつつ、適切な医療を実践できる。

③経験目標（種類、内容、経験数、学習法および評価法など）

i 経験すべき疾患

専攻医は、障害者歯科専門医研修プログラムにおける到達目標にしたがって、疾患を経験していく。障害者歯科専門医の医師像を基本に、各領域の一般目標・態度を修得し、到達目標のレベル A の疾患は障害者歯科専門医として自ら確実に経験する必要がある。学会としては、経験すべき 28 疾患中 80%以上（22 疾患以上）の経験を要求している（研修手帳に記載）。レベル B は障害者歯科指導医として経験すべき疾患・病であり、専攻医は指導医とともに経験することが望ましい。

ii 地域医療の経験（連携、地域包括ケア、在宅医療、地域での保健指導）

専攻医は、障害者歯科専門医研修において地域の開業歯科医院、高次医療機関、地域施設との連携を経験し、以下の知識・能力・態度を養う。

- 1) 地域全体の障害のある人を全人的・継続的に診ることができる。
- 2) 家族・養育者との連携を図り、健康支援者としての役割を担う。
- 3) 障害のある人や養育者の代弁者としての役割を担う。
- 4) 地域の障害者団体、施設、学校関係者と積極的に関わり、学識・研究者として歯科保健に貢献する。
- 5) ヘルスケアチームの一員として協働医療を推進する。

iii 学術活動

専攻医は、障害者歯科専門医研修プログラムにおいて、学識・研究者としての姿勢を身につけ、以下の知識・能力・態度を養う。

- 1) 最新の医学情報を常に吸収し、現状の医療を検証できる。
- 2) 高次医療を経験し、病態・診断・治療法の研究に積極的に参画する。
- 3) 筆頭著者として日本障害者歯科学会雑誌に 1 編以上論文を投稿する。

3. 専門研修の方法

①臨床現場での学習

到達目標に記載されたレベル A の臨床経験を積むことが基本となる。経験した症例は、日々指導医からフィードバック・アドバイスを受けながら、診療録の記載、サマリーレポートの作成、研修手帳への記載（ふりかえりと指導医からのフィードバック）、臨床カンファレンス、抄読会（ジャーナルクラブ）での発表などを経て、知識、臨床能力を定着させてゆく。

②臨床現場以外での学習

到達目標と研修手帳に示された 5 つの障害者歯科専門医の歯科医師像「総合的な歯科医療」、「健康支援者」、「障害者の権利擁護者」、「学識・研究者」、「医療のプロフェッショナル」を達成するために、知識と診療能力をバランス良く獲得するために、下記の学習機会を利用する。

- (1) 日本障害者歯科学会および障害者歯科の地域関連団体が主催する各種学会、研究会、セミナー、講習会等への参加
- (2) 日本障害者歯科学会主催の「認定医セミナー」、「専門医セミナー」への参加
- (3) 上記学会等での症例・研究発表
- (4) 日本障害者歯科学会オンラインセミナー（e-ラーニング）：医療安全、感染対策、医療倫理、医療者教育を含む
- (5) 日本障害者歯科学会雑誌等の定期購読および症例報告等の投稿

③自己学習

到達目標と研修手帳に記載されている小児疾患、病態、手技などの項目を自己評価しながら、不足している領域については、自己学習を進める。

上記②で述べた臨床現場以外での学習の多くは自己学習に含まれる。

その他、障害者歯科学分野のテキスト、障害者医療のテキスト、マニュアル、ウェブサイト、e-ラーニングツールなどを利用する。

4. 専門研修の評価

①形成的評価（フィードバックの方法とシステム）

定期的なフィードバックを導入し、研修手帳に記録して振り返りを促すことを計画している。

- 1) 年1回の自己のふりかえりと指導医からのフィードバック記録
- 2) 年1回の臨床現場での評価

フィードバックは、できるだけ具体的に、事実に基づいて、早いタイミングで行ってください。そして望ましい行動には、その行動がもたらした良い結果を伝えてください。不足しているものには、今後どのような行動をとって欲しいかを伝えて下さい。

これらの記録は専門医試験（面接）における参考資料としても活用する計画である。

②総括的評価

A 評価項目、基準と時期

評価項目

- (1) 障害者歯科専門医として必須の知識、および臨床現場での評価
- (2) 障害者歯科専門医としての適切なコミュニケーション能力および態度

評価基準と時期

(1) の評価について、指導医が専攻医の診療を10分程度観察して研修手帳に記録し、その後専攻医と5～10分程度振り返る。診察評価は、病歴聴取、診察、コミュニケーション（態度）、臨床判断、プロフェッショナリズム、まとめる力・能率、総合的評価の7項目について行う。時期および回数は、毎年1回（3月）、5年間の専門研修期間に5回行う。

(2) の評価については①総合的な歯科医療能力、②健康支援者としての姿勢、③障害者の権利擁護者としての態度、④学識・研究としての努力、⑤医療のプロフェッショナルとしての態度について概略的な評価（A：非常に優れている B：優れている C：やや劣る D：劣る N：評価不能可）を行う。

D判定がある場合はプログラムとして研修修了を認めず、C判定がある場合は面接で慎重に評価し最終判定を行う。時期は毎年、年度末（研修期間中、合計5回）とする。

B 評価責任者

プログラム統括責任者

C 修了判定のプロセス

前述の評価項目、すなわち(1)障害者歯科専門医として必須の知識、および問題解決能力と(2)障害者歯科専門医としての適切なコミュニケーション能力および態度について、指導医・プログラム統括責任者が修了判定を行う。

前述の様に、指導医は最低、年に1回、(1)障害者歯科専門医として必須の知識、および問題解決能力と(2)障害者歯科専門医としての適切なコミュニケーション能力および態度について、評価を実施し、研修手帳に記録する。評価の最終責任は専門研修プログラム統括責任者が持つ。

日本障害者歯科学会専門医研修施設認定申請書

一般社団法人 日本障害者歯科学会理事長 殿

当施設は一般社団法人日本障害者歯科学会専門医制度による専門医研修施設の認定を受けたく、必要書類を添えて申請します。

希望する施設認定	<input type="checkbox"/> 基幹施設 <input type="checkbox"/> 連携施設 A <input type="checkbox"/> 連携施設 B ※いずれかに <input checked="" type="checkbox"/> を入れてください。			
施設名称	ふりがな			
施設の所在地	〒 - TEL - FAX -			
URL	http://			
プログラム統括責任者名	ふりがな		印	
	e-mail			
専門医指導医名	ふりがな	印	ふりがな	印
	ふりがな	印	ふりがな	印
施設の長の氏名	ふりがな		印	
連携する研修施設	施設名	所在地		

*施設の長は大学病院において院長、歯科医師会の機関は会長、その他の機関は機関の長の署名捺印とします。

*プログラム統括責任者名のメールアドレスを記載してください。

*受付番号	第 号
*受付年月日	

(様式専施設 2-1) ②プログラム統括責任者の経歴及び業績

プログラム統括責任者の経歴及び業績

(西暦 年 月 日現在)

ふりがな		印	生年月日 (西暦)
氏 名			年 月 日
所属専門医 研修施設			
E-mail	@		

有資格	a. 専門医	b. 専門医指導医	c. 認定医指導医	d. 認定医
-----	--------	-----------	-----------	--------

年月日 (西暦)	最終学歴 及び 主な職歴

年月日 (西暦)	学会等の役員歴, 委員歴等

(様式専施設 2-2) ②プログラム統括責任者の経歴及び業績

発 表 論 文

著者及び共著者名	論 文 題 名	発表誌名・巻頁・発行年月

学 会 発 表

演 題 名	発表者，共同発表者名	学 会 名	発表年月

施設内容説明書

(西暦 年 月 日現在)

歯科医師数	常勤		非常勤		合 計		
	名		名		名		
専門医 指導医名							
歯科衛生士数	常勤		非常勤		合 計		
	名		名		名		
その他の職員	職種		職種				
	名		名				
障害者歯科 診療日	AM	月 火 水 木 金 土 日					
	PM	月 火 水 木 金 土 日					
週間平均 総患者数	名		週間平均障害者数		名		
歯科治療 椅子数	台		歯科用レントゲン装置		有 無		
全身麻酔 の症例	(1ヶ月の症例数)	精神鎮静 法の症例 例	笑気吸入 鎮静法	(1週間の症例数)		例	
	例		静脈内鎮 静法	(1週間の症例数)		例	
技工室の有無		刷掃コーナー		機能訓練の部屋		入院設備	
有 無		有 無		有 無		有 無	
障害者歯科関連 研修会の有無		症例検討会の有無		障害者歯科の 書籍数		医学関連の 書籍数	
有 無		有 無		冊		冊	
医療安全・ 院内感染対策		□医療安全対策マニュアル		□医療安全管理講習会 (年2回以上)			
		□院内感染対策マニュアル		□院内感染対策講習会 (年2回以上)			
地域連携	□開業歯科医院		□在宅への訪問歯科診療		□在宅への健診事業		
	□病院歯科		□施設への訪問歯科診療		□施設への健診事業		
過去5年間の代表的な研究活動実績							
学会発表 (演者、タイトル、学会名、発表日、開催地を記載)、および							
論文発表 (記載方法は日本障害者歯科学会雑誌投稿規定に準ずる)							
*その他の職員は診療に直接関与する職員のみ記載してください。							
*上記研究活動実績に記載の発表および論文掲載については、抄録のコピー、別刷の表紙等、内容の分かる書類を同封してください。							

施設内容説明書

(西暦 年 月 日現在)

過去1年間(西暦 年 月 日～ 年 月 日)

研修施設における症例検討会、セミナー、講習会の開催状況

日本障害者歯科学会専門医指導医・専門医・認定医指導医・認定医 名簿

氏名	登録番号	a.専門医指導医	b.専門医	c.認定医指導医	d.認定医
		a	b	c	d
		a	b	c	d
		a	b	c	d
		a	b	c	d
		a	b	c	d
		a	b	c	d
		a	b	c	d
		a	b	c	d
		a	b	c	d
		a	b	c	d

(1) 年次カリキュラム (例)

	研 修 施 設	内 容
一年次	〇〇センター	協力性の高い知的障害者の口腔診察と保健指導がするように研修する。また初診患者の情報収集、問題点の抽出と対応の研修を指導医のもとで行う。センター内での症例検討会(学会発表に準じて)で発表する。
二年次	〇〇センター	昨年に続き初診患者を担当する。自閉スペクトラム症の患者への対応を研修するとともに不協力的な患者への対応や患者に関連する福祉制度について知る。BLS の研修を行い、緊急時の対応を身につける。
三年次	〇〇センターと連携研修施設の△大学病院障害者歯科	体動のある身体障害者や内科的疾患の合併している患者の情報収集、評価と対応を研修する。またモニタリングと笑気吸入鎮静法や経口鎮静法が実践するように研修する。摂食嚥下障害のある人への対応を指導医のもとで研修する。学会発表を行う。
四年次	〇〇センターと連携研修施設の△大学病院障害者歯科	精神障害を含め、様々な障害のある人の問題点と対応を明確にしたうえで歯科治療計画および管理計画を立案する。 学会発表を行い、その内容を論文執筆する。
五年次	〇〇センターと連携研修施設の△大学病院障害者歯科	障害の種類とレベルに応じた様々な行動調整法を研修する。障害者へストレスのない歯科診療の研修をさらに進める。研修施設での症例検討会や学会発表を行う。

(2) 連携施設 (例)

施設名 (科)	所在地	研修内容
〇〇大学 (障害者歯科)	〒☆☆☆ 〇〇県△△市 A 町 1-2	不協力的な患者の対応法や薬物的行動調整法

記入例を参考にしてください。他の研修施設がない場合、記入の必要はありません。

(3) 研修項目別研修カリキュラム (例)

研修領域	研修カリキュラム	当 施設	連携 施設
診療技能	<p>障害のある患者の人格を尊重し、必要な情報収集と障害および重症度の評価、頭頸部口腔診察および必要な身体診察を行い、問題点を抽出する。そして問題手に応じた対応法を実践することを身につける。さらにストレスの少ない、安全、効率的、快適な歯科診療を実践する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平易な言葉で患者や家族とコミュニケーションをとる。 2. 障害をめぐる患者と家族の解釈モデルと期待を把握し、適切に対応する。 3. 感覚を駆使し、診察用具を適切に使用して、基本的な診察を行う。 4. 対診・紹介を通して、医療者間の人間関係を確立する。 5. 治療が難しい患者への対応について地域の医療資源を活用する。 6. 診療録に利用価値の高い診療情報と問題点と対応法を記載する。 7. 対症療法を適切に実施する。 	○	
I. 障害者 歯科医療に おける倫理 と法	学会主催のセミナーを受講し、障害者歯科医療における倫理と倫理に関連する法について学ぶ。さらに患者を通して倫理的問題、倫理に関連する法、社会背景について学び、必要な支援法を学ぶ。	○	
II 神経発達 症群(神経発 達障害群)	患者の担当医として情報収集したうえで発達と障害を評価し、歯科治療への受け入れを見極める。受け入れ可能な患者には継続的なトレーニングを行い、視覚支援や行動変容法を含め、必要な対応法を実施する。受け入れが困難な患者は、薬物的対応法や医療連携を行う。本人と周囲環境を評価し、歯科的継続管理を通して保健指導を習得する。	○	
III 精神障害 者と歯科医 療	患者の担当医として情報収集を行い、常用薬の影響、疾患の重症度を評価し、適切な対応法と保健指導を行う。	○	
IV 身体障害 者と歯科医 療	患者を受け持ち、身体障害と合併疾患の評価を行い、歯科治療上の問題点と対応を列挙し、適切な歯科医療を実践する。また困難な患者を見極め、薬物的対応法の実践や医療連携を行う。摂食嚥下障害患者の検査・評価を行い、訓練を実践する。	○	

VI 症候群と 歯科医療	受け持った症候群の患者について文献検索を行い、概要を把握し、専門的知識を習得する。さらに問題点と対応法を挙げて、適切な歯科医療と保健指導を行う。	○	
VII 行動調整	歯科治療が困難な患者の行動調整法として薬物的行動調整法について研修する。		〇〇大学病院 障害者 歯科
VIII 障害者歯科における 医療面接と 医療	初診患者を受け持ち、患者と保護者あるいは介助者とのコミュニケーションを確立させ、共感的態度で聴取し、信頼関係を築くことを研修する。またインフォームドコンセントの際には、患者本人に意思決定支援を行う。	○	
IX 医療安全管理	医療安全管理のリスク管理と事故への対処法、院内感染対策についてセミナーと小テストを実施する。当該施設や連携施設でのヒヤリハット事例に対してリスクマネジメントと対処法を学ぶ。また緊急時の基本的対応としてBLSの研修に参加する。	○	〇〇大学病院 障害者 歯科
教育カンファレンス	定期的に症例検討会を実施する。 専門医指導医による定期的なセミナーを実施し、最新情報を研修する。 地域の医療関係者によるセミナーの開催も行う。	○	
学術活動	学術大会総会に参加し、新しい情報を学ぶ。施設内の発表を通してプレゼンテーション法を身につける。研究や臨床集計をまとめ、学術大会で報告するとともに論文執筆を行う。	○	〇〇大学病院 障害者 歯科

(様式専施設 5) ⑤施設における専門医研修プログラム

(4) 施設における専門医研修プログラム (例)

I 障害者歯科医療における倫理と法

1. 医療倫理

医療倫理に関する基本的知識を身に付け、医療現場での倫理的問題に対して

一般目標： 適切かつ迅速に対応するために、必要な知識および基本的技能と態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 医療倫理の4原則(自律尊重、善行、無危害、正義/公正)を説明する。		
	2) ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言を概説する。		
	3) 医療における倫理的問題を他の問題と区別する		
	4) 患者ケアにおける倫理問題とは何かを理解し、他の人々と話し合うことを説明する。		
	5) 倫理問題に、「原則論」「手順論」「物語論」などの一定の方法でアプローチでき、必要時には助言を求めることを説明する。		
	6) 具体的な事例を通して医療倫理と法について学び、実際の医療現場で活用する。		

2. 障害者歯科と社会背景

障害のある患者の歯科的健康の維持と患者・家族のQOLの向上のために障

一般目標： 障害者歯科医療を実施するために必要な知識および基本的技能と態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) スペシャルニーズを理解する。		
	2) 障害の概念として国際障害分類と国際生活機能分類、障害者基本法第2条を説明する。		
	3) QOL、ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザインを説明する。		
	4) リハビリテーションの概念を説明する。		
	5) 病気と障害を説明する。		
	6) 被虐待児者を説明する。		

7) 障害のある親の心理 (Drotar, 1975) と死の心理過程モデル (Kubler-Ross, 1969) を説明する。		
8) 日本国憲法第 11 条、障害者権利条約 (国連)、障害者基本法 (第 1 条、第 3 条、第 4 条)、倫理綱領 (日本知的障害者福祉協会)、リスボン宣言を理解する。		
9) 障害者総合支援法における基本理念、障害者の範囲、障害者に対する支援、訪問介護を説明するとともに障害者の居住環境を理解する。		
10) 歯科口腔保健の推進に関する法律、障害者差別解消法、障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律を理解する。		
11) 保険医療制度、介護保険制度、障害者医療費助成を理解する。		
12) 地域障害者歯科医療における個人診療所、口腔保健センター、病院歯科、大学病院の役割と支援を理解する。		

II 神経発達症群 (神経発達障害群) と歯科医療

到達目標:

項目	自施設	他施設
1) 神経発達障害の定義と分類を説明する。		

1 知的能力障害 (知的発達症/知的発達障害) (精神遅滞)

一般目標:

知的能力障害者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標:

項目	自施設	他施設
1) 定義や概要 (原因、疫学、概念、特性) を説明する。		
2) 知的発達の評価を説明する。		
3) 口腔の特徴と問題点を説明する。		
4) 歯科治療のレディネスを評価する。		
5) レディネスに応じた行動調整法を説明する。		
6) 不安や拒否に配慮した診察が実施する。		
7) 安全・確実な歯科治療および予防処置を実施する。		
8) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
9) 能力に応じた保健指導を説明する。		
10) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

2 自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害

一般目標： 自閉スペクトラム症児者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念、特性）を説明する。		
	2) 口腔の特徴と問題点を説明する。		
	3) 歯科治療のレディネスを評価する。		
	4) レディネスに応じた行動調整法を説明する。		
	5) 特性に配慮した対応法（視覚支援、P E C S、マカトン、応用行動分析、系統的脱感作）を説明する。		
	6) 安全・確実な歯科治療および予防処置を実施する。		
	7) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	8) 能力に応じた保健指導を説明する。		
	9) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		
	10) 強度行動障害を説明する。		

3 注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害（ADHD）

一般目標： 注意欠如・多動症者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念、特性）を説明する。		
	2) 口腔の特徴と問題点を説明する。		
	3) レディネスに応じた行動調整法を説明する。		
	4) 歯科治療のレディネスを評価する。		
	5) 特性に配慮した診察を説明する。		
	6) 安全・確実な歯科治療および予防処置を実施する。		
	7) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	8) 能力に応じた保健指導を説明する。		
	9) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

4 限局性学習症/限局性学習障害

一般目標： 限局性学習症児者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識および基本的技能と態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念）を説明する。		
	2) 特性を説明する。		
	3) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	4) 能力に応じた保健指導を説明する。		
	5) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

Ⅲ 精神障害者と歯科医療

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 精神保健福祉法第5条における精神障害の範囲を説明する。		

1 統合失調症

一般目標： 統合失調症のある者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識および基本的技能と態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念、分類、特性）を説明する。		
	2) 基本的な精神科治療を説明する。		
	3) 常用薬の歯科医療への影響を説明する。		
	4) 口腔の特徴を説明する。		
	5) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
	6) 安全・確実な歯科治療および予防処置を実施する。		
	7) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	8) 特性に応じた保健指導を説明する。		
	9) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

2 双極性障害およびうつ病

一般目標： 双極性障害およびうつ病のある者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識および基本的技能と態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、分類、概念）を説明する。		
	2) 基本的な精神科治療を説明する。		
	3) 常用薬の歯科医療への影響を説明する。		
	4) 口腔の特徴を説明する。		
	5) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
	6) 安全・確実な歯科治療および予防処置を実施する。		
	7) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	8) 特性に応じた保健指導を説明する。		
	9) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

3 不安症/不安障害

一般目標： 不安症のある者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念、特性）を説明する。		
	2) 基本的な精神科治療を説明する。		
	3) 常用薬の歯科医療への影響を説明する。		
	4) 口腔の特徴を説明する。		
	5) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
	6) 安全・確実な歯科治療および予防処置を実施する。		
	7) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	8) 特性に応じた保健指導を説明する。		
	9) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

4 身体症状障害

一般目標： 身体症状障害のある者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念、特性）を説明する。		
	2) 基本的な精神科治療を説明する。		
	3) 常用薬の歯科医療への影響を説明する。		
	4) 口腔の特徴を説明する。		
	5) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
	6) 安全・確実な歯科治療および予防処置を実施する。		
	7) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	8) 特性に応じた保健指導を説明する。		
	9) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

5 神経認知障害（認知症）

一般目標： 神経認知障害のある者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念）を説明する。		
	2) 原因疾患とその特性を説明する。		
	3) 認知機能の評価が行える。		
	4) 基本的な精神科治療を説明する。		
	5) 常用薬の歯科医療への影響を説明する。		
	6) 口腔の特徴を説明する。		
	7) 特性に配慮した診察と対応する。		
	8) 安全・確実な歯科治療および予防処置を実施する。		
	9) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	10) 特性に応じた保健指導する。		
	11) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

6 高次脳機能障害

一般目標： 高次脳機能障害のある者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（概要、疫学）を説明する。		
	2) 原因疾患を説明する。		
	3) 高次脳機能障害の特性を説明する。		
	4) 高次脳機能障害のリハビリテーションを説明する。		
	5) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
	6) 特性に応じた保健指導を説明する。		

7 てんかん

一般目標： てんかんの特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念）を説明する。		
	2) 分類と特徴を説明する。		
	3) 基本的な精神科治療を説明する。		
	4) 常用薬の歯科医療への影響（相互作用、歯肉増殖）を説明する。		
	5) 口腔の特徴を説明する。		
	6) 発作の危険性を説明する。		
	7) 発作時の対応を説明する。		
	8) 薬物性歯肉増殖への対応と保健指導を説明する。		
	9) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

8 食行動障害および摂食障害

一般目標： 食行動障害および摂食障害のある者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念、特性）を説明する。		

2) 基本的な精神科治療を説明する。		
3) 口腔の特徴（歯の脱灰、粘膜の炎症）を説明する。		
4) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
5) 安全・確実な歯科治療および予防処置を実施する。		
6) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
7) 特性に配慮した保健指導を説明する。		
8) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

IV 身体障害者と歯科医療

	項目	自施設	他施設
到達目標：	1) 身体障害者福祉法における身体障害の定義と分類を説明する。		
	2) ADL (FIM, Barthel Index, Katz Index) と IADL を評価する。		

1 脳性麻痺

一般目標： 脳性麻痺者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念）を説明する。		
	2) 臨床分類と特性を説明する。		
	3) 基本的な医療と療育を説明する。		
	4) 合併症を説明する。		
	5) 口腔の特徴を説明する。		
	6) 特性に配慮した診察と対応（Bobath 姿勢緊張調整パターン、前投薬、鎮静法）を説明する。		
	7) 安全・確実な歯科治療および予防処置を実施する。		
	8) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	9) 特性に応じた保健指導を説明する。		
	10) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

2 重症心身障害児（者）

一般目標： 重症心身障害児・者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念）を説明する。		
	2) 特性を説明する。		
	3) 基本的な医療と療育を説明する。		
	4) 合併症を説明する。		
	5) 口腔の特徴を説明する。		
	6) 特性に配慮した診察と対応（Bobath 姿勢緊張調整パターン、前投薬、鎮静法）を説明する。		
	7) 安全・確実な歯科治療および予防処置を実施する。		
	8) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	9) 特性に応じた保健指導を説明する。		
	10) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

3 医療的ケア児（者）

一般目標： 医療的ケア児の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念）を説明する。		
	2) 特性を説明する。		
	3) 基本的な医療と療育を説明する。		
	4) 合併症を説明する。		
	5) 口腔の特徴を説明する。		
	6) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
	7) 安全・確実な歯科治療および予防処置を実施する。		
	8) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	9) 特性に応じた保健指導を説明する。		
	10) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

4 筋ジストロフィー

一般目標： 筋ジストロフィー者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念）を説明する。		
	2) 臨床分類と症状、経過を説明する。		
	3) 基本的な医療を説明する。		
	4) 合併症を説明する。		
	5) 口腔の特徴を説明する。		
	6) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
	7) 安全・確実な歯科治療および予防処置を実施する。		
	8) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	9) 特性に応じた保健指導を説明する。		
	10) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

5 脊髄損傷

一般目標： 脊髄損傷者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識および基本的技能と態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念）を説明する。		
	2) 臨床分類と症状を説明する。		
	3) 基本的な医療を説明する。		
	4) 合併症を説明する。		
	5) 歯科治療時の注意点（起立性低血圧、自律神経過反射による血圧上昇、徐脈）を説明する。		
	6) 特性に配慮した保健指導を説明する。		
	7) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

6 関節リウマチ

一般目標： 関節リウマチ者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念）を説明する。		
	2) 臨床分類と症状、経過を説明する。		
	3) 基本的な医療を説明する。		
	4) 常用薬の影響を説明する。		
	5) 口腔の特徴を説明する。		
	6) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
	7) 特性に配慮した歯科治療時の対応が実施する。		
	8) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	9) 特性に配慮した保健指導を説明する。		
	10) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

7 Parkinson 病

一般目標： Parkinson 病者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（疫学、概念、病態）を説明する。		
	2) 臨床分類と症状、経過（Hoehn-Yahr の重症度分類）を説明する。		
	3) 基本的な医療を説明する。		
	4) 常用薬の影響を説明する。		
	5) 口腔の特徴を説明する。		
	6) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
	7) 特性に配慮した歯科治療時の対応が実施する。		
	8) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	9) 特性に配慮した保健指導を説明する。		
	10) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

8 脳血管障害

一般目標： 脳血管障害後遺症者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（疫学、概念、病態）を説明する。		
	2) 分類と症状を説明する。		
	3) 基本的な医療を説明する。		
	4) 常用薬の影響と対応を説明する。		
	5) 口腔の特徴を説明する。		
	6) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
	7) 偶発症を予防するために歯科治療時の管理法を実施する。		
	8) 歯科治療が困難な脳血管障害後遺症者を高次医療機関へ紹介する。		
	9) 症状に配慮した保健指導を説明する。		
	10) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

9 脊髄小脳変性症

一般目標： 脊髄小脳変性症者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（疫学、概念、病態）を説明する。		
	2) 症状と経過を説明する。		
	3) 基本的な医療を説明する。		
	4) 口腔の特徴を説明する。		
	5) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
	6) 偶発症を予防するために歯科治療時の管理法を実施する。		
	7) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	8) 症状に配慮した保健指導を説明する。		
	9) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

10 筋萎縮性側索硬化症

一般目標：筋萎縮性側索硬化症者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（疫学、概念、病態）を説明する。		
	2) 症状と経過を説明する。		
	3) 基本的な医療を説明する。		
	4) 口腔の特徴を説明する。		
	5) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
	6) 偶発症を予防するために歯科治療時の管理法を実施する。		
	7) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	8) 症状に配慮した保健指導を説明する。		
	9) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

11 視覚障害

一般目標：視覚障害者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念）を説明する。		
	2) 臨床分類と症状を説明する。		
	3) 支援機器を説明する。		
	4) 口腔の特徴を説明する。		
	5) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
	6) 特性に配慮した保健指導を説明する。		
	7) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

12 聴覚障害

一般目標：聴覚障害者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念）を説明する。		
	2) 臨床分類と症状を説明する。		
	3) 支援機器を説明する。		

4) 口腔の特徴を説明する。		
5) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
6) 特性に配慮した保健指導を説明する。		
7) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

13 平衡機能障害

一般目標： 平衡機能障害者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念）を説明する。		
	2) 臨床分類と症状を説明する。		
	3) 基本的な医療を説明する。		
	4) 口腔の特徴を説明する。		
	5) 特性に配慮した診察と対応を説明する。		
	6) 歯科治療時のめまいへの対応を説明する。		
	7) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

14 音声・言語障害

一般目標： 音声・言語障害者の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 定義や概要（原因、疫学、概念）を説明する。		
	2) 臨床分類と症状を説明する。		
	3) 音声言語障害の検査法を説明する。		
	4) 音声言語障害の歯科的対応を説明する。		
	5) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

15 摂食嚥下障害

一般目標： 摂食嚥下障害者の症状に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：

項目	自施設	他施設
1) 摂食嚥下機能の発達を説明する。		
2) 5 期モデルとプロセスモデルを説明する。		
3) 摂食嚥下の各期の障害を説明する。		
4) 摂食嚥下障害の原因疾患を説明する。		
5) 栄養評価を説明する。		
6) 摂食嚥下障害の評価を説明する。		
7) 他職種と支援を説明する。		
8) 必要に応じて高次医療機関へ紹介する。		
9) 精密検査結果を評価し、診断を説明する。		
10) 病態に応じた基礎訓練と代償法を説明する。		
11) 摂食嚥下リハビリテーションの適応症、禁忌症が説明する。		
12) 誤嚥性肺炎と口腔ケアの重要性を説明する。		
13) NST を説明する。		

V 内科的疾患と歯科医療

一般目標： 内科疾患の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識および基本的技能と態度を修得する。

到達目標：

項目	自施設	他施設
1) 注意すべき内科疾患・病態の定義や概要（疫学、概念、病態）を説明する。		
2) 内科疾患の症状と経過を説明する。		
3) 基本的な内科的治療を説明する。		
4) 疾患による口腔の特徴を説明する。		
5) 常用薬が歯科疾患と歯科治療に及ぼす影響を説明する。		
6) 疾患に配慮した診察と対応を説明する。		
7) 偶発症を予防するための歯科治療時の管理法を実施する。		
8) 歯科治療が困難な内科疾患患者を高次歯科医療機関へ紹介する。		
9) 症状に配慮した保健指導を説明する。		
10) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

VI 症候群と歯科医療

一般目標： 症候群の特性に配慮した歯科医療を実施するために必要な知識および基本的技能と態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 注意すべき症候群の定義や概要（疫学、概念、病態、合併症）を説明する。		
	2) 口腔の特徴を説明する。		
	3) 各症候群に配慮した診察と対応を説明する。		
	4) 合併症の増悪を予防するために歯科治療時の管理法を実施する。		
	5) 歯科治療が困難な者を高次医療機関へ紹介する。		
	6) 特性に配慮した保健指導を説明する。		
	7) 生活環境に配慮し、保護者および介助者に障害者の歯科口腔保健の支援を説明する。		

VII 行動調整

一般目標： スペシャルニーズのある患者の状態に応じた行動調整法を実施するために必要な知識、基本的技能および態度を修得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 行動調整法の概要を説明する。		
	2) 障害のある人への対応の基本を説明する。		
	3) 各種行動療法や対応を説明する。		
	4) 行動療法により行動変容を説明する。		
	5) ストレスが歯科治療時の行動に与える影響を説明する。		
	6) 薬物的行動調整法の適応症、禁忌症、使用法を説明する。		
	7) 特殊な行動調整が必要な患者を見極め、高次医療機関へ紹介する。		
	8) 開口保定器の種類と使用上の注意点を説明し、安全に使用する。		
	9) 物理的な体動コントロールの概要（利点、欠点、方法）を説明する。		
	10) 物理的な体動コントロールの実施時にインフォームド・コンセントを実施する。		

VIII 障害者歯科における医療面接と医療

1. コミュニケーション

一般目標： スペシャルニーズのある患者と保護者あるいは介助者とのコミュニケーションの重要性を理解し、信頼関係の確立に役立つ能力を身につける。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) コミュニケーションの方法と技能（言語的（手話を含む）と非言語的）を説明し、コミュニケーションが患者の態度あるいは行動に及ぼす影響を概説する。		
	2) 適切なコミュニケーション方法を選択する。		
	3) コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことを説明する。		
	4) コミュニケーション手段および情報の取得や利用のための手段について、選択の機会を与えられる。		
	5) 共感的態度で聴取および傾聴することを説明する。		

2. 信頼関係

一般目標： 患者と歯科医師の良好な関係を築くために、患者の精神・心理的状況や個別的背景を理解し、問題点を把握する能力を身につける。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 患者と家族の精神的・身体的苦痛に配慮する。		
	2) 患者と家族にわかりやすい言葉で話すことを説明する。		
	3) 患者と家族の話を共感的に傾聴する。		
	4) 患者の精神・身体的状況、心理的状況、社会的背景から、口腔の健康を維持し、歯科治療を行う際の問題点を抽出する。		
	5) 治療方針や歯科的管理方針について患者と家族の気持ちに寄り添いながら話し合うことを説明する。		

3. インフォームド・コンセント

一般目標： 自己決定に関連する項目を習得するとともに患者の意志決定が確認できない時に配慮すべき事項と適切なプロセスを習得する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 適切なインフォームド・コンセントを取得する。		
	2) インフォームドアセントを説明する。		

3) 障害のある患者とその保護者・家族に対して心理的配慮を説明する。		
4) 患者の質問に適切に答え、拒否的反応にも柔軟に対応する。		
5) 意思決定支援を説明する。		
6) 患者が自己決定できない場合の対処法（ベストインタレスト、共同意思決定）を説明する。		

4. 患者中心のチーム医療と支援

一般目標： チーム医療、福祉、介護と歯科医療との関連の重要性を理解し、他職種との支援を図る能力を身につける。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) チーム医療の重要性を理解し、説明する。		
	2) 医療チームの構成や各職種の役割分担と支援・責任体制について説明し、チームの一員として参加する。		
	3) 自分の医療の限界を認識し、必要に応じて他の医療従事者に援助を求め、高次医療機関に紹介する。		
	4) 保健、医療、福祉、介護とのチーム支援において歯科医師の役割を説明する。		

5. エビデンスに基づいた医療

一般目標： 認定医を取得する歯科医が研修期間中に医学・医療に関連する情報を重要性和必要性にしたがって客観的・批判的に統合整理する基本的能力（知識、技能、態度・行動）と「問題対応能力」即ち EBM の考え方と実践法を身につける。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 講演、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出する。		
	2) 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現する。		
	3) 患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることを説明する。		
	4) 科学的根拠に基づいた医療の評価と検証の必要性を説明する。		
	5) 患者による医療の評価の重要性を説明する。		

IX 医療安全管理

1. 安全の確保

医療上の事故（インシデントを含む）や医療関連感染症（院内感染を含む）等は日常的に起こる可能性があることを認識し、過去の事例に学び、事故を防止して患者の安全性確保を最優先することにより、信頼のもとに医療を提供することを説明する。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 医療上の事故等を防止するためには、個人の注意力はもとより、組織的なリスク管理が重要であることを説明する。		
	2) 医療現場における報告・連絡・相談と記録の重要性や、診療記録改竄の違法性について説明する。		
	3) 医療の安全性に関する情報（薬剤等の副作用、薬害や医療過誤等の事例（経緯を含む）、やってはいけないこと、優れた取組事例等）を共有し、事後に役立てるための分析の重要性を説明する。		
	4) 医療の安全性確保のため、職種・段階に応じた能力向上の必要性を説明する。		
	5) 医療機関における医療安全管理体制の在り方（事故報告書、インシデントリポート、リスク管理者、事故防止委員会、事故調査委員会）を概説する。		
	6) 医療関連感染症の原因および回避する方法を概説する。		

2. 医療事故等への対処と予防

医療上の事故等（インシデントを含む）が発生した場合の対処の仕方を学ぶ。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) インシデント（ヒヤリハット）、医事紛争、医療事故、医療過誤の違いを説明する。		
	2) 医療上の事故が発生したときの緊急処置や記録、報告について説明し、実践する。		
	3) 医療過誤に関連して医師に課せられた社会的責任と罰則規定（行政処分、民事責任、刑事責任）を説明する。		
	4) 基本的予防策（ダブルチェック、チェックリスト法、薬品名称の改善、フェイルセーフ・フールプルーフの考え方）について概説し、実践する。		

5) チーム STEPPS (Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety=医療の成果と患者の安全を高めるためにチームで取り組む戦略と方法)を理解し、実践する。		
6) RCA (Root Cause Analysis) を説明し、実践する。		

3. 医療従事者の健康と安全

一般目標： 医療従事者が遭遇する危険性（事故、感染等）等について、基本的な予防・対処および改善の方法を学ぶ。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 医療従事者の健康管理（予防接種を含む）の重要性を説明する。		
	2) 標準予防策（Standard Precautions）の必要性を説明し、実行する。		
	3) 感染経路別の予防策について説明する。		
	4) 針刺し切創等に遭遇した際の対処を説明する。		
	5) 医療現場における労働環境の改善の必要性を説明する。		

X 障害者歯科医療への貢献・学会活動への参加

一般目標： 歯科医学を生涯通じて学び、障害者歯科医療に貢献する姿勢を身につける。

到達目標：	項目	自施設	他施設
	1) 最新の医療情報を得るために学会や研究会へ参加する。		
	2) 調査・研究の内容を決められた様式にしたがって文書と口頭で発表する。		
	3) 検索・検出した医学・医療情報から新たな課題・仮説を設定し、解決に向けて科学研究（臨床研究、疫学研究、生命科学研究等）に参加することを説明する。		
	4) 経験した症例を分析し、過去の報告を踏まえて考察し、文書と口頭で報告する。		
	5) 個人情報保護を保護し、倫理的諸原則を遵守する。		

2015 年 11 月 認定委員会作成

2019 年 11 月 専門委員会改訂

(様式専施設 6) ⑥プログラム チェックシート

【専門研修プログラム チェックシート (例)】

※は専門研修プログラム整備基準の該当項目

	プログラム冊子の記載について、以下の項目に対する自己評価 (2/1/0) を右欄に記入してください 2:十分に記載されている 1:記載されている 0:記載が不十分である	研修施設自己評価	専門医委員会評価
1. 専門知識/技能の習得計画	<ul style="list-style-type: none"> ・習得すべき専門知識/技能を示している ・勉強会/抄読会などの定期的な学習機会を計画している ・診療科での定期的な症例検討会を計画している ・関連診療科との定期的な症例検討会を計画している ・プログラム全体でのカンファレンス等の学習機会を計画している ・学会/研究会等での学習機会への計画的な参加を示している ・自己学習の環境 (文献、教材等へのアクセス) を整備している 	1	1
2. リサーチマインドの養成および学術活動に関する研修計画 学問的姿勢、学術活動、研究に対する考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・習得すべき学問的姿勢を示している ・実施すべき学術活動を示している ・上記を習得/実施できるための研修計画を示している 	1	1
3. コアコンピテンシーの研修計画 (医療倫理、医療安全、院内感染対策等) ※2.-②-iv 医師としての倫理性・社会性など (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理、医療安全、院内感染対策等の学習機会を計画している 	2	2
4. 地域医療に関する研修計画 地域医療の経験、 地域医療・地域連携への対応、 地域においての指導の質保証	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療・地域連携を経験するためのプログラムが含まれている ・地域医療を経験する機会を計画している ・上記研修中の指導体制は十分である ・指導体制が十分でない場合、指導の質保証の対策を示している 	1	1
5. 研修計画	<ul style="list-style-type: none"> ・年度毎の標準的な研修計画を示している ・年度毎の到達目標が達成可能である 	1	2
6. 評価時期と方法 (知識、技能、態度に及ぶもの) (評価のフォーマットは領域で統一されたもの) 4.-①形成的評価、4.-②総括的評価 (専門医研修プログラム整備基準4)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修途中の歯科医師の評価時期、方法を示している ・研修終了にあたっての歯科医師の評価項目、基準、時期を示している ・多職種による歯科医師の評価を計画している 	1	1

日本障害者歯科学会専門医研修施設更新申請書

一般社団法人 日本障害者歯科学会理事長 殿

当歯科診療機関は一般社団法人日本障害者歯科学会専門医制度による研修施設の更新を受けたく、必要書類を添えて申請します。

登録番号	認定期限 (西暦) 年 月 日まで		
希望する 施設認定	<input type="checkbox"/> 基幹施設 <input type="checkbox"/> 連携施設 A <input type="checkbox"/> 連携施設 B ※いずれかに <input checked="" type="checkbox"/> を入れてください。		
施設名称	ふりがな		
施設の所在地	〒 - TEL - FAX -		
URL	http://		
プログラム 統括責任者 名	ふりがな		印
	e-mail		
専門医 指導医名	ふりがな	印	ふりがな
	ふりがな	印	ふりがな
施設の長の 氏名	ふりがな		印
連携する 研修施設	施設名	所在地	

* 施設の長は大学病院において院長、歯科医師会の機関は会長、その他の機関は機関の長の署名捺印とします。

* プログラム統括責任者名のメールアドレスを記載してください。

事務局記入欄

*受付番号	第 号
*受付年月日	

(様式専施設 9) 過去 5 年間の研修実施状況報告書

過去 5 年間の専門医育成状況報告書

取得年度	登録番号	氏名	取得年度	登録番号	氏名
備考					

(注) この 5 年間に当該施設で研修を行い（関連施設としての研修を含む）障害者歯科専門医を取得した歯科医師名を記載すること。

研修実施状況の概略（研修の実態がわかるように，その概略を総括的に記入すること）